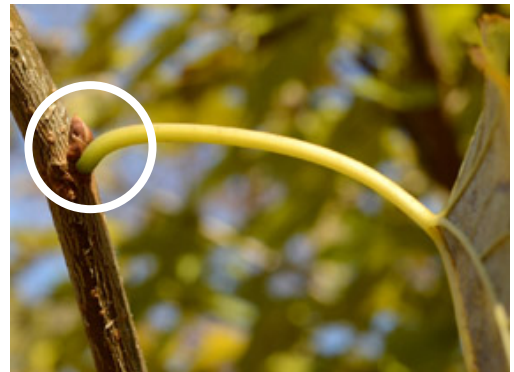


紅葉もピークを過ぎ、落葉樹は葉がだいぶ落ちて枝先がさびしくなっていました。でも、よく見ると、木々はすでに翌春の準備を進めているのがわかります。春に展開させる若葉や花のもとがぎゅっと詰まったカプセル、それが冬芽です。今回は、冬芽を観察してみましよう。

◆じつは一年中ある？

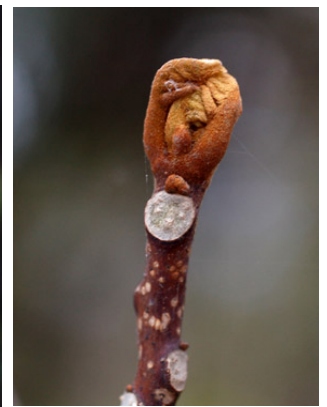
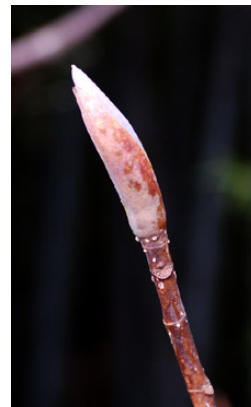
冬に葉が落ちて目立つから冬芽と言いますが、同じものは一年中見られます。春から秋、葉が展開している間も、その付け根にかならず芽がついています。これは休眠芽きゅうみんがといって、自然な落葉ではなく、何かの原因で突然葉が落ちてしまったり、虫などに食べられてしまったりしても目を覚まし、展開します。このような休眠芽のうち、秋の終わり頃の自然な落葉の後に残ったものを、冬芽と呼ぶのです。



葉の付け根に見られる休眠芽（マグワ）

◆いろいろな防寒対策

冬芽は、新しい葉や花のもととなる大切な部分です。冬の寒さで凍ったり、風などで傷ついたりしてもいけません。なので、固いカプセルに包まれていたり、もこもこの毛で覆われていたりします。トチノキなどは、べたべたした粘液を出して凍らないようにしたうえ、虫による食害を防いでもいるのです。



芽鱗を持つホオノキ（左）と毛に覆われたニガキ（右）

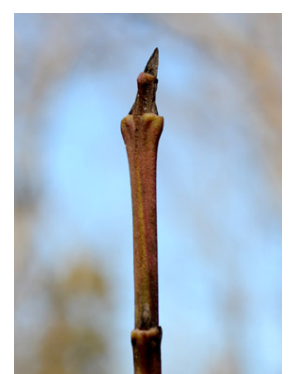
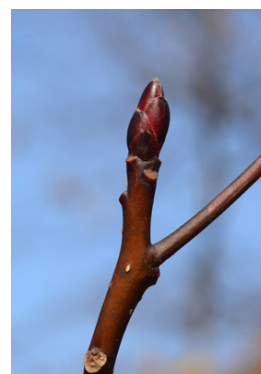
◆葉痕ようこんとあわせて木の特徴となる

冬芽は木の種類によって形が違っているので、冬の間、葉が落ちてしまってから種類を見分けるための重要な特徴となります。冬芽とセットで特徴となるのが、葉痕です。これは、葉が落ちたあとにつく「しるし」です。茎や葉の内部にある、水分や養分を運ぶ通路である維管束いかんそくと呼ばれる管のあとが模様となるので、これらの特徴を合わせて見ていくと、だいたいの落葉樹は冬でも種類がわかるのです。

博物館のまわりにたくさん生えているミズキとクマノミズキは、葉も花もととてもよく似ている木どうしです。でも、冬芽を見ると、まったく形が違います。冬芽のほうにわかりやすい特徴が出ている代表的な例です。

また、こうした冬芽と葉痕などの枝の模様を見ていくと、動物の顔や人形の顔に見えたりして、冬の自然観察のお楽しみとなります。

葉が落ちて明るくなった林内で、冬芽をじっくり観察してみませんか？



ミズキ（左）とクマノミズキ（右）の冬芽

次回のお知らせ

ミニ観察会：1月14日（土）11時から
新聞 No. 9 も観察会にあわせて発行します。



相模原市立博物館